

彦根愛知犬上地域新ごみ処理施設建設に係る
説明会概要（鳥居本学区）

日 時	令和元年 6 月 4 日（火）午後 19 時 30 分～午後 21 時 00 分
場 所	鳥居本地区公民館 大集会室
参 加 者	38 名
	鳥居本学区 29 名（男性 23 名、女性 6 名）
	彦根愛知犬上広域行政組合 大久保管理者（彦根市長）
	事務局 神細工務局長、建設推進室（杉山室長、大久保室長補佐、宮川主幹、山本主幹、宮寄主任）、総務課（中江課長）
コンサル業者	パシフィックコンサルタンツ株式会社 大阪本社 資源循環室（山崎技師）、地域創造室（有田副室長）
次 第	1 開会 2 挨拶 (1) 大久保管理者 3 内容 (1) 資料に基づき説明（これまでの経緯、施設の概要について） (2) 質疑応答

挨拶	
(事務局)	(あいさつ・出席者紹介)
(管理者)	(あいさつ)
資料に基づき説明	
(事務局)	引き続きまして、計画中の施設等について事務局より説明をさせていただきます。
(事務局)	(資料説明)
質疑応答	
(事務局)	<p>それでは、今ほどの事務局からの説明、また冒頭の管理者からの報告を含めまして、ただいまから質疑応答のお時間とさせていただきます。</p> <p>なお、2 点お願いがございます。1 点目でございますが、ご質問いただく際は、お名前は結構ですので、自治会名だけでも教えていただけますようお願いいたします。それぞれの自治会の皆様がどのような点を気にされているかというのを今後の対応の参考にさせていただきますと考えております。</p> <p>続きまして 2 点目でございます。本日はなるべくたくさんの方からのご意見、ご質問を頂戴したく存じます。ですので、できましたら一問一答のような形で簡潔にご質問いただきますようお願いいたします。</p> <p>それでは、係員がマイクを渡しに参りますので、ご意見、ご質問のある方は挙手をお願いいたします。</p>

(住民1) 北甲田町の●●です。まず質問しますが、いわゆる新ごみ処理施設建設というのは今から2年前に決まった問題だと思うんです。6月ですからちょうど2年たっておりますが、冒頭、主催者から話がありましたが、何か自分の言い訳みたくて話が噛み合わない面が非常に多い。これは改めないと今後の市政運営ができないと私は思います。きつい言い方をしますが、今の現状を表している、そのままだと思います。話が逸れますけど、市長さんのほうでもこれと同じことなんです。こういうことをしているから。それは十分反省をしてもらわないといけないというのが1つ。

もう1つは、白紙ということでこれは出ているんです。白紙というのは、日本語で白紙というのは元に戻すのが白紙ですわね。これは白紙ではないですよ。もともと5つあったのを4つにただけで白紙ではないわけです。ところが、竹原がもうこれは降りたということ、駄目だということをやったのですが、これは消えて、3つでもってするのが私は白紙という意味だと。できないことはないですけどね。4つそのままやるということ、これは白紙という言葉を使う日本語じゃなしに、どこ言葉を使っているのか。

行政組合というのは組織としては独自にあるけれども、上にそれぞれ主催者がいるわけですから、ナンバーワンは彦根市がナンバーワンです。愛荘でも田原でも豊郷でもないと思います。だからそこら辺をしっかりと考えてやっていかないとますます混迷を来すと思います。まずこれだけ1点、どういう権限を持っておられるのかお聞きしたいと思います。あともありますけれどね。

(事務局) ありがとうございます。候補地の選定としての白紙という言葉についてのご質問と、これからの進め方とか、そのあたり2点ぐらいですが。

(管理者) 白紙に戻すということについて冒頭に申し上げたのは、竹原地区1地区を唯一の候補地としたことで議員の皆様方はさまざまなお意見をお持ちになって、その点で通らなかった。

(住民1) 私はそんなこと言ってない。あんたの言い訳ばかりしているわけや。議員が違うって。決めたのはあんたでしょう。だから日本語ではっきり言ったらよろしい。

(管理者) 議会は通りませんでした。

(住民1) 議員が悪いんだったら議員が悪いと言ったらいい、はっきり。

(管理者) 議会の理解が得られないということです。お話し合いをさせていただいて、ほかの候補地ももっと検討してもらいたいというご意見でございましたので、ほかの応募地も改めて候補地として検討していくという決定をしたということです。

(住民1) もう本当は言い訳は聞きたくないんやわ。もともと議員もみんな入って決めたはずなんや。行政組合があるんやから、ここで何しているんやから。ただいろいろな問題をね、最初あって出なんで、後でいわゆる棄却した分もあるかと思いますが、それは。そやけど、それにこだわっているのやなしに。自分勝手に決めてこうやってなってしまった。それをいつまでも議員が悪いとか、そんなことを言うけれど、そうしたら市庁舎はどうなの？ これも議員が悪いの？同じことでしょう、話は。根底はね。だから、そういう論法を今ここでしているのではなく、もう2年経とうとしている。さっき言ったように2年前の6月に決めて、この2年後の6月に白紙になったという、こんなみっともない話はどこに行ってもないと思いますよ。これが彦根市の舵を取っている者かというふうに私は思います。そこんなんです。だから詫びということは一つもないでしょう。こんなの詫びが要るのに。

(事務局) ご意見ありがとうございます。その他、ご意見、ご質問等をいただければと思います。

(住民1) いや、答えが。これね、さっき言ったように2年たってこんなことを言っているでしょう。喫緊の課題とさっきもご説明もありました。確かに喫緊の課題です、彦根市のね。最終、これ見ていると、令和11年と書かれています、これが課題？11年と書くのが喫緊の課題と言いますか。これが日本語の難しいところやと。私、わからない。理解できへん。だからその辺のトップを言っているというのは、彦根市は情けないと思う。

(管理者) そこを見ていただいたらおわかりいただけるかと思うのですが、決定をしましても、地質調査、環境影響調査、それにかかなりの期間を要します。そこで決めて建築についての準備を始めていく。そういうことの時間的な余裕というのが10年程度ということです。したがって、用地の取得、土地利用を変えていかなければいけません。そうしたことについてもかかるわけですから、早く候補地を決めたいということです。

私どもは5つの応募地がありまして、議員の理解が得られなかったとおっしゃっていただいたのですが、そうではなくて、第三者委員会で公平公正に決めていただいた優先順位というのがあります。その1位から順番に当たってくださいという答申でした。ところが1番について、私どもは事前に農業委員会から農振地域は避けるべきだという意見具申をいただいていたということもあって、さらにその地質が軟弱だということで、ボーリングはしていませんが、そこまで行かなかったけれど、近くのボーリングをしたデータがありましたので。地盤改良に、その場所は一番最初に断念したところです。

(住民1) そこは石寺や。

(管理者) そこから近いので地盤改良にかなりお金がかかるということを想定して、あえて1番を選ぶというよりも、2番目だった竹原が土地も固いし、用地も比較的安く整備ができるということで話し合っ決めてさせていただいたということです。しかしながら、それはご理解を得るに至らなかった。いろいろと話し合いをさせていただいて、ほかの応募地もまだまだ検討の余地があるというご意見が強かったので、あえて4つの応募地を候補地として、本来候補地として選定をしたならば手続き的にいろいろな書類も出させていただかなければならないし、こうした住民説明会をさせていただかなければなりませんので、その手順を一緒に同時並行ですということを判断したわけです。

(住民1) 事務局長が来ていますからお伺いしたいのですが、これは金銭的なことです。これ、平成11年からスタートして、広域行政でされて、具体的に愛荘に決まるまでね。それで今日までに至っているわけです。だからこれも11年スタートだから、今もう平成で言いますと31年、20年ほどしっかり検討してきているのですが、前段の分の愛荘地区の竹原に決まってから後の、今市長がお金を払ったというボーリングも言われましたが、その辺の費用がかなりかかったと思うんです。だから私の言う前段の費用というのは、竹原に決まるまでの費用、それから竹原に決まってから白紙にするまでの費用、大体大雑把でどのぐらいかかってます？ ちょっと発表してください。

(事務局) 今20年近くかかっているということで、前段の部分と竹原になってからの2年間ですが、こちらのほうでは費用という部分では把握していません。

(住民1) それを出してもらわないと困るんよ。またもう一遍ボーリングとかやれば。あんたら使いたい放題使ったらええのとちがう？ そんなやり方やったら。何を考えているんだ。よう事務局長しているわ。

(管理者) 実際に用地を決めないといけません。用地を決めて、用途を変えていかないといけないわ

けです。

(住民1) 決めて、竹原のほうにずっと来たったやないか。

(管理者) 竹原に決めたのは……。

(住民1) 金を使っているやないか。使ってないと絶対言わせんで。

(管理者) それは使っています。

(住民1) ちょっと……追及してよ。

(管理者) 説明会等々もさせていただいていますのでね。ただ、まだ用地を買いに行ったり、環境アセスメントをしたりということはしていません。その予算を認めてもらっていませんので。それを認めてもらうためには皆さんから合意を得られる候補地を決めないといけないということなんです。ですから、基本計画というのを outsa させていただきました。これは先ほどもご説明させていただいたように、どこでやっても必要な計画、これはさせていただきます。ただ、場所を決めて、実際に建設に向かうための予算というのはまだ執行されていませので、そこはご理解いただきたいと思います。

(住民2) 管理者の方はちょっと勘違いしているんですよね。言っておられるのは、今までかかった費用はどれぐらいかというのを聞きたいんです。実際に決まってからいろんな地質調査とかせなあかんのやけれども、それはこれからかかる金であって、今までどれぐらいかかったかというのを言わんと駄目ですね。

それともう1つ、議会のOKが得られなくなるということで、今回4つの候補地でもう1回やるという話ですけれども、何で議会でOKが得られなかったというのをきっちり言わんと駄目です。議会でOKが駄目だというのがいくつかあるんです。大きな点が。それを言うとかんと駄目です。

(管理者) これまでかかった経費というのは事務局費とかそういうものでございますので、通年で要るものでございます。これは事務費。

(住民1) 人件費が一番要るやないか。何言ってるんだ。

(管理者) 先ほどから申し上げた石寺、三津海瀬、これを断念せざるを得なかった。こうした経緯がありますので。しかしながら、それは選んでいくための必要な経費でございますので、そこはご理解いただきたいと思います。

竹原をご理解いただけなかった理由の大きなものは、要するに先ほども申した第三者機関で選んでいただいた優先順位の1番ではなかったということ、このことによってさまざまなご議論が生まれてきたというふうに私は理解しています。

私どもは1番を選ばなかった理由は先ほど申し上げたとおり、いわゆる農業委員会から意見書をいただいていたし、地盤改良にかなりお金がかかるだろうという見込みがあったので、そこと比較をした2位のところのほうが経済的にも有利であるという判断を管理者会でしたということです。そこがご理解を得られなかったということ。1位でなかったということが一番大きかったのだらうと思います。

(住民2) 今の話を聞いていたら、何かそういう決め方というか、それに問題があるんじゃないですか。先ほど今後のスケジュールという説明があったのですが、これは先ほどの話を聞いてみると、令和元年、2019年度から一応どこかに決まってから、その部分の地質とか断層の調査をしようというような流れですね。これをやってあかんとなったらどうするんですか。

それと、地質とか断層の調査をやって、例えばの話ですが、50億かかると見ていたところが100億になったらどうするんですか。ということを知りたい。

(管理者)

選定委員会でそのあたりも検討していただきました。地質の専門家も現地に行っていて、断層があると言われていたところが2カ所あります。竹原区、そして原地区、この2カ所は敷地が断層にかかっている。ただ、断層の真上に建てない限り影響は非常に少ないということで答申をいただいています。しかしながら、やはりそこは実際に調査をしてみないと予測が確たるものとならないために断層調査、環境影響調査などをさせていただかないと駄目だということです。

もし仮にそこで駄目だったらほかの候補地を当たらないといけないということになります。しかしそこは行政主導でやっても同じことですので、今の現時点では建設は不可能ではないという答申をいただいているのを前提にやらせていただいています。そこをもっと確かなものにしたいと思っています。

(住民2)

やっぱりやり方がおかしいですね。今の断層があるというのは、いろんな資料をもとに判断をやって。

(事務局)

よろしいですか。またもう一度ご意見をいただければと思います。

(住民2)

きっちりした管理者から回答が出ていないので言っているんですよ。要するに実際はボーリングするとか、そういうことをしないとはっきりわからないわけですよ、候補地の。それでやって駄目だったらまた違うところをやるわけですよ。

(管理者)

そうしたことに手間も時間もかかりますので、あらかじめ専門家に入っていて外形的な調査はしていただいています。地質の地図なども当たっていただいて、影響は少ない。断層の真上に建てなければ、この断層に関しては影響は少ないと承っているのが現状です。それを確かなものに高めるような、ほかの環境影響調査もしなければなりませんので、そこに進んでいきたいと思っています。

(住民3)

本町です。今の話に続くような感じで聞きたいのですが、平成29年の資料によりますと、結局80、20点の評価で行くと、第1位が73ポイントで上西川、第2位が70ポイントで竹原、3位が70ポイント。1位と2位との差が約3ポイント違うわけですが、2位と3位の差が0点何%、そういう数字のパーセンテージだったのですが、それが最終的に農業委員会とか地質の問題があるとか、石寺でそういう問題があったということ考えた場合に、80点、20点の点数を入れた委員の皆さんは、地盤が軟弱だということを知っているながらも73ポイント入れているということは、決まってから、ここは軟弱だからお金がかかるというよりも、委員の皆さんに対する情報提供が薄かったのかなと思うんです。最初にここは地盤が軟弱だから、そういうことも考慮されて、地盤というものを最初言われましたけれど、そういうものであるならば73ポイントで、要するに2位との差が3ポイント開いて指定されることはなかったのではないかと思います。その絡みが、軟弱地盤だからということで、3ポイントの差があっても2位の竹原にしたんじゃないですか。その辺の決定というのがよく見えてこないんですけども、その辺は一体どのようなあれなんですか。2位の竹原がもし2位でなくなった場合は、軟弱地盤の1位に行くのではなくて3番目の、3番目の場所がどこかわからないのですが、3番目の場所が急に浮上するのかなと思うのですが。

委員の皆さん、委員の名簿も一応見せていただきましたが、委員の名簿もほとんどが豊郷

であったり愛荘町であるとか、そういう方々が多く含まれて、彦根の委員の方はほとんどいないのかなという現状であってその数字だったのですけれども。

今回の、いわゆる平成 29 年に出されたこの資料は、さっき言われたみたいに白紙に戻してではなくて、この資料をまたもとにして決めるということなので、これは要するに 73 ポイントであるとか 70 ポイントであるというのは、これはもう変わることはないものなのですが。

(事務局) 過年度の選定結果についてはまた……。

(管理者) 先ほど出していただいた元になる数字、金額の差が大きかったということです。1 位の下西川の土地の取得価格が。

(住民 3) 要するに今の話で行くならば、5 カ所、今回 4 カ所になると思うのですが、その中で例えば一番安く仕上がることで竹原になったというようなイメージを持っていいのですか。竹原がコストが一番安く収まるから竹原という？

(管理者) イニシャルコストね。用地取得額です。

(住民 3) 用地取得額として一番安く収まるという。例えばさっき言われていた軟弱地盤に対する土地改良を考えた場合に相当の金額がかかるしということで竹原になったという？

(管理者) そうということです。

(住民 3) 私ね、今日、リバースセンターに行っているいろいろお話を聞いていたりしていたのですが、結構 4 町のごみの出し方が変わりました、4 町が 4 町なりにすごく問題が多いなというのがあったのですが、今犬上 3 町で不燃ごみの出し方としてペットボトルなんかは社会福祉法人さんのほうに委託をして、そちらのほうで綺麗に洗浄をして出しているという話を聞いたのですが。社会福祉法人さんの話を聞いた場合に、身体障害の方々の雇用の施設としてペットボトルの回収を行っているのですが、10 年後には一本化されてごみ処理場ができるということは、社会福祉法人の身体障害の方々の雇用の場というものは奪われるような形になるのでしょうか。

(事務局) 今彦根市の清掃センターのほうでもペットボトルの梱包の作業をいただいているのも障害の方に入っていただいてやっていただいているという面がありますので、その辺は新しいごみ処理施設ができたときにどういった形で入っていただくことができるのかどうかというの、今後の検討課題かと考えております。今やっておられる場所ではそういった作業をいただくことはなくなるかもしれませんが、雇用の場というのは検討していくことになるかと考えております。

(事務局) 他の方も、すみません。

(住民 4) ●●です。一人一問一答ということで、簡単にさせていただきます。

平成 27 年度の公募のときから私も新しい焼却場がどこになるかということで関心もあったのでホームページとかそういうのを参考にさせていただいたんです。実際に竹原に決定されるまで、どこの自治会の方が公募されているのかとか、そういうのは全然わからなかったわけです。先ほど最初に市長が話をされて、寝耳に水で初めて竹原が決定されたというようなことを皆さん知ったということで、それで今後につきまして、私、思うんですが、候補地もこのように公表されたということですので、要は地元の反対があるかないかというのが大きな原因であるだろうと思いますので、今後についてはインターネットの情報の公開とか、こういう方法でどういような状況になっている。そして 8 ページの令

和元年度から2年度の間のこういう調査項目についても、この候補地についてはどういう状況であるかということで、市民側がわかるような情報提供をしていただきたいということで、関心を持って見えていますので。

(事務局) ありがとうございます。しっかり情報提供をしていただきたいというご意見でした。その他、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。

(住民3) 今情報提供ということを言われたのですが、平成29年の報告書の中では候補地が1から5までであったのですが、今回4カ所になっているということは1カ所が抜けたというか、そうなったと思うのですが、1位が下西川で、2位が竹原というのはよくわかるのですが、先ほどの方も結局寝耳に水という感じの話なのですが、この報告書を市民に出すとなれば、ここに73ポイントとか70ポイントという数字が書かれているのですが、この場合、第1候補地、73ポイントを取ったのが下西川で、70ポイントを取ったのが竹原、同じ70ポイント、0.23ぐらいの差ですけども、それが3位で、4位があるのですが、この資料の第1候補地、第2候補地というのは、今日も広域行政組合で聞いたのですが、これは要するに公開しないことを前提に作ったものだから、どの候補地がどの場所かということ言えない。1位と2位はもう出ているようなものなので、3位と4位の場所は出せないものではないでしょうか。出してもらえれば我々市民のほうも、この候補地が何点だったんだとか、そういうのがわかると思うのですが、その辺はどういうようになるんですかね。

(事務局) 過去の検討結果の扱いについてということだと思います。

(住民3) 我々市民として、情報というものはしっかりある、情報がたくさんあれば取捨選択する把握しようがあるのですが。要するに公には第1候補地、第2候補地がどれかということは説明がないものですから、新聞とか、今の話で第1候補地が石寺の隣ということで下西川だとわかるし、第2候補地が急に決まったということで竹原だとわかるのですが、第3候補地、第4候補地というのはどこなのか。要するに前の1から5までで、抜けた1カ所に関してはわからなくてもいいのですが、残ったあとの2カ所に関してはどこを見ればわかるのでしょうか。ここではっきりと候補地3、候補地4と言っていれば一番わかりやすいのですが。

(住民4) 候補地がわからない。インターネットで見ても、どこがどのような評価の点数だったのか。

(事務局) 来ていただいたときにお話をさせていただいたのですが、ホームページに載せています概要版と本日の資料の12ページで概略の面積も記載させていただいています。そういう中でご確認ください。こういう説明会でお話しさせてもらうのは、1位は下西川で2位が竹原ということまででしたので、あとのところについては各位でご理解いただければと思います。

(住民3) ていうか、1位と2位までわかっているんだから、3位、4位も別にわかっていいんじゃないかと思うんですけども。今日、昼間、豊郷のほうに行ったときに説明していましたが、1位、2位が公になっているのであれば、3位、4位もしっかり出していただいて、市民の方にご検討していただくというような形、情報提供と言うならばそれもアリかなと思うのですが。やっぱりそれは出せないものなんですか。

(管理者) 先ほどからお話しさせていただいているように、資料を見ていただいたらご理解いただけると思いますので。我々としては公開しないという前提で来ていますので。ただ、資料を当たっていただいたらご理解いただけると思います。

- (住民3) 結局その辺の部分の公開がないというのが不透明さにつながってくると思うのですが。そこまでわかっているんだったら、言ったらええやんという感じがあると思うんですよね。
- (住民1) 時間も来ますので最後に1つだけ。ほんまは最後まで聞きたいのですが。これ、いろいろ経過があつて、今年の4月、いわゆる先ほど話がありますように5あった地区から4つの地区で再応募するという結論が今年の4月に出ていますね。これ、計画に書いているのですから、私が言っているのではなしに、あなた方が言っているわけですから。その後、統一地方選挙がございます。彦根市の議員は新しく交代されましたので、かなり異動になっています。
- そういう中で、さっき管理者が言っていましたのは、議員との云々という言葉が出ました。決めたけれど議会云々出ということですね。その辺で既に6月議会がスタートしているのですが、今後について、いつまでもこんなことをしている時代ではない、早くしなければいけないわけですから、まず主催者と議会との、彦根市もさることながら、ほかの1市4町でやるわけですから、その辺の見通しはどうなんですか。それだけ最後に1つ聞いておきたいと思います。こんなのいくら説明会したって小田原提灯で、あんなものに銭もかけないし。
- (管理者) まずは昨年、甲良町議会と彦根市議会でこの決定を白紙に戻してほしいという決議が出されました。その後、広域議会でも決議がされた。その過程で議員の皆さん、ご意見はさまざまです。竹原を支持するという方もかなりだった。しかしながら、さまざまな意見があるので、それを整理するためにも一旦白紙に戻してほしいということでした。私ども、議会に相談させていただいて、どのようにするか。ただ、竹原も一旦決定していますので、これを下ろすということにはならないわけなので、ほかの応募地も候補地として認めさせていただこうと。
- 応募地として決まりましたら、書類審査とか今回の住民説明会とかこういう手続きをしていきますので、これを並行してやっていくということにいたしました。まず私どもはこれを、この4つの候補地から1つに絞っていくという作業をさせていただく。決め方も含めて議会と相談させていただいています。
- ほかのところは何番目だったというのは、さっきご自身でご理解くださいと申し上げたのは、5つあった地区が1カ所下りています。公開しないという前提でしたので、4つの公募地で残った候補地は公開を了解してもらっています。したがって今ご確認いただいていることになっています。全体としてのお約束、応募地との約束の上で非公開というのが前提ですので、私どもからお話をさせていただくのは。
- (住民1) そんなこと聞いてない。公開だと。
- (管理者) だから議会との。
- (住民1) 議会との関係があると言うたやん。だからその辺の見通しを言っているわけです。それははっきり答えないかん。
- (管理者) 7月中に決定をして、8月に議会の議決を得たいというスケジュールで進んでいます。
- (住民1) 余計なことを言わんでええ。あなたの話は全部ズレてる。ピンボケというのはこのことや。
- (住民2) あのね、ちょっと聞いてほしい。先ほどの説明で、網かけが1から12まであるんですけども、この中で住民の方が一番心配なのは、例えば環境のどうのこうのという、どこに決まっても同じような施設を作ると思う。あと、災害時の拠点ということで、同じような

ことを作られるのであって。ただ、住民から言ったら、⑥のごみの搬入出のルート、ここで書いてあるのは、まだわからないから具体的に決まったところの方と相談しましょうということですね。そんなもので判断できないと思うんですよ。

それともう1つ、こういう説明会をやった、やったと言っているだけであって、みんなが納得していないですよ。ということだけは言っておきたい。

(管理者)

例を申します。竹原区で決めたときに、こういう説明会をさせていただいて、搬入ルートについていろいろな懸念をお示しいただきました。台数、何台通る、どこを通過してほしい、どこは通るな。そうしたものを具体的に検討させていただいて案を作っています。そういう作業を重ねていきますので、これからぜひご関心を持っていただいて、いろいろとご心配の向きはおっしゃっていただいて、整備していきたいと思っています。

(事務局)

そのほかご意見、ご質問等ございませんでしょうか。

(住民5)

本日の説明会の自治会長あての回覧文書が5月12日ですか、回覧が回ってくる中で、連合自治会としても各自治会単位でのそういう過去の経過で問題かと思っているのですが、今回鳥居本小学校学区という形で説明会の回覧が回ってきまして、私、立場的に連合自治会としての立場もあるし、周辺馬場自治会ということで、ごみ建設問題については過去から、20何年当時から説明会を聞いて興味を持っていたわけです。

本日の説明会に参加する中で、住民説明会、今年の4月5日付の朝刊で見ると、白紙撤回になった中で、今後4候補地に対する説明会を開いていくという中で、本日の住民説明会の運営ですね。先ほどコンサルタントが入っていると聞いたのですが、これにかかる経費等、運營業務ですね、予算的なものは、いつ予算となるのか。本来行政組合は住民説明会を直営で運営すべきではないかと思ったりするのですが、その点が1点です。

先ほど来、鳥居本学区としては原町が候補地になっているのですが、12ページの位置図を見る限り、かなり周辺道路等の整備が今後必要かと思われるのですが、東部とインターが近接している、これで見るとは相当問題点等、クリアすべき点はあろうかなとは個人的には思っております。

それと、今回住民説明会を受ける中で、6月1日付の広報に住民アンケートを実施すると。これも住民7000人に対して、18歳以上で、無作為抽出。建設候補地の人は除く。郵送方式という形でスケジュールが組んでおられるのですが、一体これはどういう形でのアンケート。建設候補地の人は除く、これはかなり字が細かくてなかなか読みにくいと思うのですが、今よく見ると、建設候補地の人は除く、この辺コメントをぜひ聞かせてください。

(住民?)

建設候補地の自治会を除くということです。

(住民5)

今の広報を読む限りはそういう。今、後ろからいろいろ声があった中で、その辺しっかりとした説明をお願いしたいと思います。

(事務局)

3点ほどございました。1点目は運営について、場所の件と、最後はアンケートのことで

(事務局)

本日コンサルの方にも来ていただいているのですが、先ほど施設整備基本計画の策定等の業務ということで3カ年、予算を取ってやっていただいている部分があるのですが、その中で住民説明会の支援業務というのも入れさせていただいております。本日はその形で来ていただいていることになります。

住民アンケートの形ですが、アンケートの内容としましては、ごみ処理施設に対するイメ

ージをお聞きしたり、新しいごみ処理施設を建設する場合に、環境であったり、道路の混雑度であったり、懸念されると部分はどういうところであるかということをお聞きするようなものでして、特に人気投票になるような形にはさせていただいてはいないのですが、自由記述の部分がございますので、それぞれどういった意見があるというのも、その辺も参考にさせていただきたいということで、手を挙げていただいている建設地の方、応募地のところは自分のところに持ってきたいというのは当然だと思いますし、そのあたりは聞かなくても大丈夫ということで、周辺、また候補地がない3町、豊郷町、多賀町、甲良町の住民様にも意見を聴取しようということでさせていただいているものでございます。

(住民5) これは具体的に作業に入っているのですか。6月には発送、どういう段階なんですか。

(事務局) 発送させていただいて、既に返ってきている部分でございます。早い方はすぐに送り返していただいているという方もおられます。

(住民5) 6月1日の広報でということですね。それまでに出すの？

(事務局) 6月1日には着くような形で発送させていただきましたので、既にすぐに送り返していただいたという方もございます。

(住民3) 説明会の意味を考えた場合に、説明会が一通り終わった後に、情報を聞いた後に答えるのならばいいと思いますが、説明会をやっている最中に既に発送して返ってきているというのでは、段階としては非常に不透明に見えるんです。とりあえず今ここでやって人が集まって、住民が集まってきているのも何か既成事実を作るためなのかなというふうに勘ぐってしまう部分もあるのですが。多分皆さんがすごく不信に思っている点というのはそういうところに出ているのではないかなと思うのですが。

(事務局) アンケートにつきましては、誰もがこういった説明会を聞かなくても持っておられるイメージであったり、もし自分のところにごみ処理施設が来るとなったときに懸念されるようなことをお聞きするものですので、それを圏域の住民様に。

(住民2) 言い訳なんかしてもらわなくても結構ですよ。

(住民5) それが総合的な判断材料になるわけでしょう。今回のアンケートが。

(住民2) 皆さんのこういう意見があったというのを真摯に聞いてもらって。

それと、おたくはコンサルの方ですね。

(事務局) そうです。

(住民2) 住民説明会をやるに当たってのスタンスが悪い。司会進行の方は組合の方がやるべきです。さっき言われたように、住民の方が質問の中で、コンサルの人が答えなあかんような内容についてはコンサルの人に振ったらいんじゃないですか。そう思います。

(住民3) 今回のこの説明会ですが、説明会の議事録としてちゃんと文書化して残していただけるのでしょうか。皆さんの話を聞くというのはいいのですが、聞いて終わりではなくて、どういう意見がこの地区からは出たと、箇条書きでも構わないので、出たという意見をちゃんと資料として残していただいて、それを参考資料にさせていただく。これもただ単に説明会をやったというだけで、どんな意見があったか10年、20年たったらわからんというのではなくて、ちゃんと資料を残していただきたい。そうしていかないと、我々が意見したところで、結局その意見は何にもならん。要するに馬の耳に念仏ではないですが、通りすぎていくだけのものになってしまうので。意見を聞くためのアンケートだって、説明会が終わった段階でどうですかという意見ならわかるけれど、説明会をやっている最中に既にそ

ういう書類が来て、もう書いて送り返しているというのも何かおかしいなと思うのですが。

(住民5) 今日、そのアンケートは持っているの？ 文書は。

(事務局) 本日は資料としては。ホームページには公開はさせていただいて、内容もホームページに載せています。

(住民5) 一々ホームページなんか見ている人はない。説明会にアンケートの用紙というか、こういうものですという説明はなしですか。

(住民6) ここに集まっている人は恐らく意識の高い人だと思うんです。反対とか賛成とかそういうことではなくて、彦根市がどうなっているのかな、今度のこの計画はどうなのかなと関心のために来ている人が多いと思うんです、はっきり言えば。地域外の方の発言がずいぶん多いですけどね。

ここに来た人に、大体行政がやっているときは仮にしょうもないことでもアンケートを書かされるんです。今日はないんです。こういうときにこそ言うべきだと思う。そんな無作為のアンケートではなくて、説明を聞いて、どうでしたか、理解してもらったかどうか。例えば今日20人集まったら、20人がみんな意味がわからない、納得できないと言われたらもう1回やる。それが対話だと思うんです。これは対話になっていない。

うまく一人一人、そりゃ一人の人が喋りすぎたら駄目だとおっしゃるのでしょうけれど、お聞きしたことに対して回答が曖昧だったら、また違うことを聞いて当たり前なんです。何ら一つも前に進んでないですよ、今日のこの説明会は。少なくとも、今日名前まで書かされましたからね、みんな。そうしたらその人たちに、これ、わかったかどうか。いいとか悪いとかじゃなくて、それこそ住民の理解ができたかどうかということの判断の材料だと思います。

(事務局) ありがとうございます。先ほどの議事録の公開の件と進め方の件にご回答いただければと思います。

(事務局) 議事録は取らせていただきまして、先ほども情報提供はお願いいたしますというご意見をいただいておりますので、そのあたりはこれまでもさせていただいておりますので、本日の部分についても公開をさせていただくことになります。

対話という形でご指摘をいただきましたが、本日、アンケートについても、皆さん、この場に集まっていた方のご意見を聞けるようなアンケートもご用意させていただくべきだったと今改めてお聞かせいただきまして、本日は用意しておりません。申し訳ございません。またホームページにはご意見をいただけるように、メールでも……。

(住民6) それは行政の悪いところ。ホームページで公開しているからみんなに知らしめたと。今すべてがそうなっているんですよ。けど、ホームページ、使っている人でも一々そんなの見ないですよ。ましてや見にくい自治体のホームページなんか。彦根市はまだましですけど、滋賀県は今最悪の状態です。そんなややこしいホームページまで一々ね。みんなそんなゆとりないです。

それで、ホームページに載せたら、それで終わりやという考え方はもう少し地を掃くような説明をして、みんなが納得して、よかったな、住んでいてよかったな、楽しいな、ここでよかったなという気持ちになれるような市政運営をやってもらわなければ困りますよ。みんなから言われているんですよ。ひこにゃんから始まって、彦根市はどうなっているの

か。ひこにゃんは大丈夫？ ひこにゃんが大丈夫なんじゃないんです。多分今日来ている人は大丈夫なのかなという気持ちで来ている人が多いと思うんです。その辺きちんとやっていただきたいと思います。

(事務局) ご意見ありがとうございます。

(住民5) ちなみに選定委員会は、メンバーは誰なんですか。

(住民4) そんなのはホームページに全部書いてある。ホームページや何かで情報提供ということで、これが一番手っ取り早いけれど、前までのホームページのあれは情報が、候補地がなかったのが全然理解ができなかった。そういうことで情報のわかりやすい発信の方法をやってもらいたい。

(住民5) 言ってくださいよ。選定委員会のメンバーは誰ですか。

(事務局) 学識経験者として2名の方をお願いしておりましたが、県立大学の環境科学部の教授、立命館大学工学部教授、専門委員として、彦根警察署の交通課長、途中で交代されておりますので、彦根警察署からは2名、途中からということです。あと、法律事務所の方、不動産鑑定士の先生、あと、公募の方と、それぞれの市町からご推薦いただいています方に環境衛生委員として5名来ていただいています。

(住民5) 先ほど管理者が今後のスケジュールの中で、要するに用地交渉、用地取得という表現が出たのですが、彦根市のスポーツセンター絡みの用地買収で相当世間を騒がした。最後、滋賀県としては伝家の宝刀を抜いて土地買収を敢行したんですね。今後どういう展開になるか、その辺は注目というか、管理者の主導というか、しっかりした形でスムーズな展開を。

(管理者) そもそも今回応募をしていただくのに地権者のまず同意を

(住民5) だから、まずそういう展開をして。

(管理者) 同意をいただいたものが今の候補地です。

(住民5) 最後1人でも反対であれば用地取得できないんです。だから、彦根スポーツセンターも用地買収絡みで相当世間を騒がしましたやないですか。あれはなくしたんでしょう？

(管理者) ですから今回は地権者の皆さんは同意をされています。

(住民5) だから、そういう説明、今そう言われた。それならそれで。

(管理者) 同意をしていただいた上で応募してもらっています。

(住民5) すべて同意なんですか。

(管理者) その同意をいただいている書類を出していただいているところと。

(住民5) もう100%？

(管理者) 100%出していただいているところもあります。

(住民5) 出していないところもあるの？

(管理者) 今準備をしていただいている。

(住民5) 私が言っているのは、要するに用地取得、用地取得とって。

(住民) 周辺の住民の関係があるので。

(住民5) 用地取得が大事な一番作業だと思いますので、あまり世間を騒がせるようなことはやめていただきたい。

(事務局) ありがとうございます。お時間が少し過ぎてしまっているのですが、もしよろしければ、本日はこれで閉会させていただければと思っております。

(事務局) 本日お配りしております資料に、行政組合の連絡先も記載させていただいております。ま

だまだご意見を伺いたいというところではございますが、またこちらのほうでご意見をいただければ対応させていただきたいと思っておりますので、ここはこれで会を終わらせていただければと考えております。

では、閉会に当たりまして行政組合事務局長さんからご挨拶を申し上げます。

(事務局長)

皆さん、夜分お疲れのところ、本日は多数ご参加いただきましてありがとうございます。本日の説明にもございましたとおり、彦根市、愛知郡、犬上郡の1市4町の圏域におけます新ごみ処理施設の建設は必要不可欠でありまして、喫緊の課題でもございます。今回、建設候補地再選定への参加意向をお示しいただきました4自治会の皆様にご感謝申し上げますとともに、周辺地域の皆様のご理解を今後もお願いしたいと考えております。

これからも4つの候補地周辺学区の住民の皆様を対象にしました住民説明会を開催いたしまして、広く地域住民の皆様のご意見等をお伺いしてまいりたいと考えております。

先ほど話にありましたように、合わせまして圏域住民の皆様7000人を対象にしました住民アンケートを6月に実施してまいります。本日ご参加いただきました皆様の中でアンケート用紙が届きました際にはご協力いただきますようお願いいたします。

本日は貴重なご意見、お考えをお聞かせいただき、ありがとうございます。今後は、賜りましたご意見、またアンケート結果、そして選定結果の報告書などを検討材料といたしまして、8月を目途に4つの候補地の中から最終的な建設候補地1カ所を決めてまいりたいと考えております。

今後も新ごみ処理施設建設に向けた取り組みにご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。以上をもちまして本日の説明会を終了させていただきたいと思っております。本当にありがとうございます。

以上